

手足口病 Jul 16th 2000

1. 原因は？

原因となるウイルスは1種類ではありません。コックサッキーA5、A7、A9、A10、A16、B1、B3、B5、エンテロウイルス71型で起こります。

一番の多い原因はコックサッキーA16型です。

(コックサッキーB5は心筋炎との関連でも有名です。)

すべて感染すると腸管から1～3か月にわたり排出されることからエンテロウイルス(腸のウイルス)と呼ばれます。現在まで68種類が分離されていて昔は培養される細胞の種類でコックサッキーウイルス、エコウイルス、(それからポリオウイルス)と分けられていましたが、1970年以降新しく分離されるウイルスは順番にエンテロウイルス〇〇型と付けられています。1970年以降に分離されたウイルスは68型から72型まであります。ちなみにコックサッキーというのは1948年に分離されたニューヨークの街の名前(Coxsackie)にちなんでつけられたようです。

1998年の台湾での大流行(20万人が感染し、55人が死亡)ではエンテロウイルス71型が原因となり、脳炎、髄膜炎、弛緩性麻痺をきたしました。

2. 潜伏期は？

4～6日です。

3. 症状は？

粘膜疹と発疹(ほっしん)が出ます。口内炎は舌と頬粘膜に多くみられ、潰瘍性で、大きさは4～8mmです。水泡疹は足よりは手に多く見られ、手掌よりは手背に多くみられ、約1週間で消えます。

お尻にも出ることがあって、この時は水泡化せず発疹のまま1週間ほどで消失します。

臨床症状は年齢依存性で、3才以下の乳幼児では感染するとほぼ100%水泡疹が出ますが、小学生では38%、中学生以上では11%と年齢が上がるにつれて感染しても症状が現れない不顕性感染が増えます。

エンテロウイルスに対する中和抗体は2か月でピークに達し、6年後にはまた感染するぐらいまで中和抗体が低下しますが、その頃には不顕性感染の割合が高くなるため結局手足口病に何度も罹患する可能性は低いと言えます。

手足口病のほとんどはコックサッキーA16型によりますが、一番心配なのはやはり脳炎を引き起こすエンテロウイルス71型の感染の可能性だと思います。

台湾での症例では320人が無菌性髄膜炎、脳炎、急性弛緩性麻痺の疑いで入院し、55人が死亡しました。

41人は入院24時間以内に死亡し、55人のうち43人は3才以下の乳幼児でした。

こどもの場合どのウイルス性感染症でも言えることですが、重症の場合かならず意識レベルの低下（つまり元気がなくなってボーっとしてくる。）があり、逆に39～40℃の発熱があっても水分が飲めて、キョロキョロして周囲への関心が失われていない場合には、そんなに具合が悪くない（Not so sick）と考えます。